

# 月刊推進技術



<http://www.lsweb.co.jp/micro-tunnelling/>

月刊推進技術 検索

公益社団法人

日本推進技術協会

<http://www.suisinkyo.or.jp>

e-mail: [info@suisinkyo.or.jp](mailto:info@suisinkyo.or.jp)

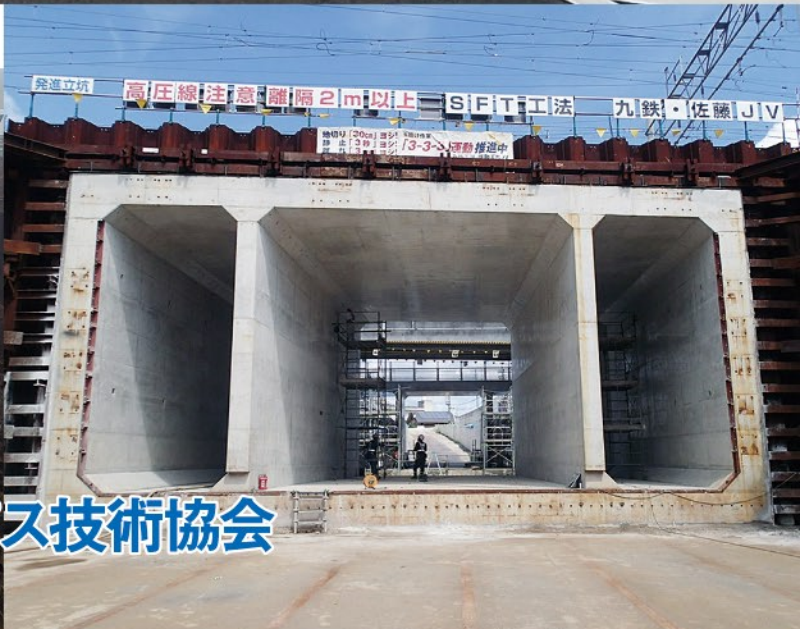
12

Vol.29 No.12  
2015(平成27年)



特集

推進工法による**矩形**トンネル構築



アンダーパス技術協会

硫酸化細菌によるコンクリートの腐食を防ぐビク剤を混和したビクリート製品の普及拡大を目的としたビクリート製品協会は、11月18日帝国ホテル（東京・内幸町）において第20期定時総会を開催した。

ビクリート製品とは日本ヒューム㈱、㈱安藤・間らが開発し中川ヒューム管工業㈱やゼニス羽田㈱など当協会会員らがヒューム管や組立マンホール、ボックスカルバートなどのコンクリート2次製品の製品展開をしている。

総会の議事では、昨年度の事業報告および決算報告で①広報活動としてホームページや業界各誌紙において広告掲載などを実施②全国6支部（北海道・東日本・中部・関西・中四国・九州）において会員を対象とした技術講習会を開催③(公社)日本下水道協会の主催行事として、9月16日から10月1日にかけて全国4会場（富山・名古屋・福井・大阪）において、地方自治体、コンサルタント、建設会社を対象とした資器材研修会に参画。「耐食性ビクリート製品」の室内講義および製品・サンプル・パネル展示を実施したことなどの事業

報告とそれに伴う決算報告が審議され、原案通り可決承認された。

今年度の事業計画および予算案では、競争力構築に向けて技術の改良、競合製品に対する差別化を行うことで本製品の普及促進とシェア拡大を目指すこととし、品質および実績が認められ下水協Ⅱ類認定資器材に登録製品であり、ライフサイクルコストの優位性をなどアピールし積極的な広報活動として①業界誌紙やホームページを活用した広報活動②会員向け情報交換および技術研修会と業界誌紙への技術情報の掲載③広報および技術指導等の支部活動の支援強化などの事業計画とそれに伴う予算案を審議し、原案通り可決承認された。

前期中に野村静夫前会長から引き継いだ大川内稔新会長（日本ヒューム㈱代表取締役社長）は懇親会冒頭のあいさつで、東日本大震災の津波で被災した仙台市南蒲生浄化センター災害普及工事にもなうボックスカルバートの需要が大きく影響し「10年ぶりに1万トン超え」は明るい話題であると語った。しかし国内の下水道新設工事が減少しヒューム管の国内需要が縮小傾向にあることを踏まえ「ビッ



▲「ビクリートを世界ブランドに」と方針を示す大川内新会長

クリートの海外展開を目指す」と方針を示した。特に大川内新会長の海外担当経験を活かしたインド、フィリピン、ベトナム、カンボジア、タイ、インドネシアなど高温で下水道管きよの腐食環境の進行が懸念される地域にビクリートの早期に展開したいと語り「ビクリートの世界ブランド化」を目指すとして今後の方針を示した。

昨年度の出荷実績は、73%増の10,956トン。内訳ではヒューム管類が15%増の2,125トン、マンホール類では31%減の1,482トンで2年連続減少であるが、南蒲生浄化センターの特需があったボックスカルバートなどを含めたその他が7,349トンと全体の67%を占める結果となり10年ぶりの1万トン超えを実現した。